

講座名称：高冷地植物生産生態学演習
 高冷地動物生産生態学演習
 高冷地生物生産生態学演習

担当教員：岡部 繭子， 関沼 幹夫， 春日 重光， 荒瀬 輝夫， 濱野 光市

対象学生：全国の大学生

実施時期および募集人員：

高冷地植物生産生態学演習 平成26年8月 6日(水)～8月 9日(土) 若干名

高冷地動物生産生態学演習 平成26年8月18日(月)～8月21日(木) 約10名

高冷地生物生産生態学演習 平成26年9月 1日(月)～9月 4日(木) 約50名

集合時刻：各開講期間とも初日の10時(農学部)，または12時(野辺山ステーション)

集合場所：信州大学農学部(※公共交通機関を利用し，実施場所の野辺山ステーションへの直接集合も可)

住所：長野県上伊那郡南箕輪村8304

アクセス：高速バス中央道伊那インター，または伊那インター前下車 徒歩約15分

実施場所：信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 野辺山ステーション

住所：長野県南佐久郡南牧村大字野辺山字ニツ山462-1

TEL:0267-98-2638(岡部繭子)

地 図：



演習内容・計画(3演習はほぼ同様の内容)

信州大学農学部には八ヶ岳東山麓の野辺山高原(標高1351m)に附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)野辺山ステーションがあります。周辺一帯は、高原野菜の栽培と酪農が盛んな地域で、こうした環境のなかで環境保全型農業に関わる教育、研究を推進しています。

夏季の冷涼な環境で、高冷地特産のキャベツなどの高原野菜やベニバナインゲンなどの豆類とソバを生産しています。また、黒毛和種の肥育素牛を生産する繁殖飼育を行っています。さらに、周辺の野菜生産農家の見学や酪農施設を利用した牛乳の加工も体験することができます。

演習では、教員および技術職員の指導により、自炊設備を備えた宿泊施設(収容50名)と高冷地フィールド・施設を活用して高原野菜の生産・出荷と加工利用および家畜の飼養管理を体験し、食料の生産から出荷・販売までの一連の過程を学びます。さらに、近隣の自然観察を行い、高冷地の特異な自然環境について学びます。

本年度の計画は以下の通りです。また、夕食後は高冷地農業および自然環境全般について研究および体験発表等を行います。なお、天候および野菜の生育状況、受講学生の専攻等により計画を一部変更することもあります。

- 1日目：集合・移動， 昼食後 ガイダンス・野辺山ステーションおよび近隣農家の見学と説明
- 2日目：午前：高原野菜の栽培管理と収穫
午後：乳用牛の管理および牛乳加工体験
- 3日目：午前：高原野菜の栽培管理と収穫，和牛の飼養管理と放牧観察
午後：野辺山および八ヶ岳周辺の野生生物の観察および調査(飯盛山登山)
- 4日目：午前：飼料作物の栽培管理，ソバの加工実習
昼食後解散

参加費用：

授業期間中の宿泊費・食事費等約4千円を現地で徴収します。

集合場所までの旅費は自己負担です。

提出書類:

- ①講座申込書(信州大学様式)
- ②健康診断証明書
- ③学生教育研究災害保険の加入を証明する文書のコピー

申込締切:

平成26年7月4日(金)信州大学農学部必着

受講許可:

書類の提出後、受講の可否について本人に通知します

受講証明:

本演習は信州大学で2単位の演習として開講している科目と同一の内容です。

修了学生には「修了証明書」を発行します。

キャンセルポリシー:

開催1週間前以降のキャンセルについては宿泊費を、1日前および実施期間中のキャンセルについては参加費用全額を支払っていただきます。

その他特記事項:

◎集合について

野辺山ステーションに直接集合する場合は、公共交通機関を利用し、下記問合せ先まで連絡すること。

◎持参物

初日の昼食、水筒、医療保険証、作業着、日焼け防止用帽子、手袋、長靴、日焼け止め、筆記用具、宿泊に必要な身の回り品(シャンプー等洗面具、タオル、着替えを含む)等

◎やむなく欠席する場合:

1週間前までに信州大学農学部学務グループまで申し出てください。

直前にやむなく欠席・遅刻する場合も、必ず連絡してください。

書類送付・問合せ先:

〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304 信州大学農学部学務グループ

Tel:0265-77-1309 Fax:0265-77-1313 Email:agakumu@shinshu-u.ac.jp